

第18回 京都御苑ずきの御近所さん

勅願所 清荒神護浄院 住職 松景 崇誓 様



清荒神護浄院様と御所との関係について、 教えて頂けますか？

御所との関係ですが、毎年1月、5月、9月に、皇室の安泰と、天皇皇后両陛下、皇太子殿下御一家の御無事をお祈りし、お札とお守りをお納めしています。それに対し宮内庁から「お供物料」をお届け頂いております。

数年前に皇太子殿下が伊吹山に来られた際、伊吹山にお寺を復興されたご住職から、「皇太子殿下に御祈願したお札を渡したいが、どうすればいいのか？」と相談を受けました。「うちはお札とお守りを奉書に包んで、水引をかけます。水引は宮内庁がお使いになる白と緑を使用しています。緑は実際は紅なんです、赤を濃くすると濃い緑になるんです。それが宮内庁専用だそうです。その水引を結んで、奉書に『奉』と書いて献上します」とお答えしました。後日、念の為宮内庁京都事務所に行きお尋ねしましたら、殿下にお渡しすることはできないとのことでした。「うちはお札を献上させて頂いていますが、どうして伊吹山の場合はできないのですか？」とお尋ねすると、「松景さんのところは特殊なんです。このようなお寺は全国で5本の指を折れないくらいですよ」と言われました。その時に護浄院ってすごいお寺だと再認識した次第です。非常に名誉なことでも有り難いことです。考

えてみますと毎年2回、京都の有名なお大寺の方々が宮内庁京都事務所に行き、天皇陛下からの「御下賜金」を戴かれます。私も某寺院の代理として行き、下賜金を戴いて参りますが、護浄院の場合「御下賜」ではなく、「供物料」として、しかもお届け頂ける。これは恐れ多く有り難い事だと思います。

「清荒神」について教えて頂けますか？

清荒神護浄院は奈良時代、^{*1}光仁天皇様の皇子である開成皇子様が早くに出家され、^{*2}摂津国勝尾山の「きよし(す)」というところで修行をされていました。この開成皇子様というのは勝尾寺や大阪の神峯山寺などのお寺を開かれた方なんです、ある時修行中に荒神さんが鬼の姿となって表れ、この感得された荒神さんを清荒神と名付け、守護神としてお祀りされたのが始まりです。その後清荒神を祀った寺は「常施無畏寺」「常施寺」と呼ばれていました。そして平城京から天皇の使いである勅使がお参りに行かれるようになり、その後都が平安京に移ってからも勅使による参詣が続いておりました。南北朝の動乱が収まった時代、^{*3}後小松天皇様より「勝尾山はあまりに遠く勅使の労少なからず」との勅があり、京都の堀川高辻あたりに移されました。現在は観音寺というお寺がありますが、

住所は荒神町となっています。私は縁あって毎年この観音寺の近辺へ地藏盆のお参りに行っていますが、近辺の町名は喜吉町と言われています。文字は違いますが、清荒神の「清」からきていると思います。その後安土桃山時代になり、後陽成天皇様より豊臣秀吉^{*4}に対し、「御所の辰巳（南東）の方向は神が寄宿するところなので、御所を護るため清荒神を御所の南東へ移すように」との勅があり現在地に移転してまいりました。この時から勅願所として毎日欠かさずことなく、天皇陛下の玉体安穩と皇室の安寧、また皇室の皆様の御健勝をお祈りしております。後水尾天皇様^{*5}・靈元天皇様^{*6}の代になり、江戸幕府との関係が上手くいかなくなったこともあり、清荒神に対し、不断修行の勅を賜り、続いて東山天皇様からも長期にわたり護摩秘法供を行う『長日護摩供』や、『三千座護摩供』を命ぜられています。この時御利益があり念願が叶ったということで、東山天皇様から『御所の浄域を護る』という意味で『護浄院』という名前を頂き現在に至っております。以来天皇皇后両陛下や皇室の皆様の御健勝・皇室安泰を祈願し、祈祷札を献上させて頂いております。以前は京都御所・御苑にはいくつもの宮家があり、それぞれに祈祷札をお届けしていたようですが、宮家により御札の作り方が異なっていたようで、各宮家の御札の作り方が資料として残っています。以前は菓も作ってお届けしたようです。今は天皇皇后両陛下・皇太子殿下御一家の御祈願札を献上しています。皇后陛下が皇太子妃殿下であられたころ、直接献上札のお礼のお電話を頂いたということを聴いております。また皇太子妃殿下より「浩宮殿下・礼宮殿下・紀宮殿下の近況と祈祷札献上のお礼をお伝えするように」とのお伝えがあったと、当時の東宮大夫様からの手紙が残っています。まことに恐れ多く、有難いことと思っております。

お祀りされている「准胝観音様」について教えて頂けますか。

じゅんていかんのん
准胝観音様というのは佛母『仏の母』と書き、たいへん優しい女性の味方の観音様です。

除災延命だけではなく、子授けや安産の功德など女性

の悩みを聞き届けて頂けます。それに関連して、京都市内を限定として観音様の霊場「洛陽三十三観音札所霊場」があります。これは平安時代後白河天皇様が定められたものですが、江戸時代に紆余曲折があり一度断えていました。その札所霊場を平成になり、ちょうど10年ほど前に真言宗や浄土宗の若いお坊さんを中心に、宗派を超えて復活させようという動きがありました。お坊さんたちは単車に乗り、各寺院を回り説得をして歩かれたんです。清水寺さん、東寺さん、三十三間堂さんなど錚々たるお寺へ伺い、頭を下げて、遂に復興することができたんです。それはたいへんな御苦労だったと思います。その時「洛陽三十三観音霊場」には護浄院は入っていませんでした。うちの近所に三番札所の寺院が神社と共にあったようですが、明治の神仏分離・廃仏毀釈で絶えて無くなりましたので、新たなお寺を探しているとの相談を受けました。たまたま護浄院に准胝観音様がお祀りしてありましたので、代わりにということで札所霊場会に入れて頂きました。それ以来皆様とは親しくお付き合いさせて頂いております。2箇月に1度、清水寺様で役員会をさせて頂いておりますが、お陰様で宗派を超えていろいろな関係の方と知り合い、仲良くさせて頂いております。仏教の基本の一つは「縁」ですが、本当に善き縁を頂いています。昨年霊場会再興10周年記念事業を行いました。準備委員会を立ち上げるにあたり、「松景さん委員長を」と言われたとき、「私のお寺は新参なのでそういう訳にはいかない」とお断りをしましたが、是非とのことでしたので、会長の清水寺様、各札所の皆様の了解を得て委員長を勤めさせて頂きました。同年の方もおられますが、宗派を超えて若い人たちと知り合え、ほんとにいい勉強をさせて頂きました。天台宗の若いお坊さんたちにも「宗内だけではなく、他宗の方たちとも、積極的にもっとおつきあえば面白いよ」という話はしているのですが。

「洛陽三十三観音札所霊場」というのは京都市内のみで回れますので、その気になれば2日で回れます。お寺は大規模なお寺もあれば私の寺のように小規模なお寺もあります。どちらかといえば「洛陽三十三観音」は比較的住職が直接御朱印を書いたり、お話をしたりする機会が多い札所のように思います。普通御朱印はそのお寺の

職員さんがお書きになることが多いと思いますが、住職に御朱印を書いて頂けるということは、それなりに尊い事だと思います。小僧の頃ですが、お茶室に掛ける掛軸はある程度の決まりがあるが、僧侶の書いた軸は決まりにこだわる必要はないということを知ったことがあります。そういう意味では僧侶の書いたものは有難いのだと思います。私の師匠は「字は下手くそでもいい、ただ一生懸命一画一画丁寧に書けばそれでいい。それが尊いということだ」と教わりました。余談ですが某寺院で、お手伝いに来たお坊さんに朱印を書かせましたところ、後日字が下手だという苦情の電話を頂きました。その時は「本人の字は上手ではないのですが、一画一画丁寧に書いているはず。他の寺のように職員が上手な字を書くのもいいですが、僧侶が誠実な文字を書いた朱印も尊いですよ」という話をして、御理解頂いた事があります。慣れない僧侶に朱印をさせた私が悪いのですが、そういうこともありました。御住職や奥さん、お寺の御家族の方とふれあう機会が多いアットホームな感じなのが洛陽三十三札所です。是非巡礼されたいと思います。

うちの本尊さんは清荒神さんですが、荒神さんは「火の用心」「災難除け」の神様です。また荒神さんは汚れを嫌い、綺麗で清浄な、清らかなところを好まれます。綺麗なおところといえば一番は^{かまど}竈ですので、竈のある台所においでになります。

別な意味で荒神さんは物質な汚れもそうですが、人間の汚れも嫌われます。人間の汚れは身・口・意が原因で汚れると言われますので、身を慎み・言葉を慎み・悪い考えを起ささないようにしないと祟りがあると言われる。荒神さんは文字の如く荒ぶる神様なので、大きな御利益は頂けますが、間違うと祟りやすく恐ろしいです。護浄院の荒神さんは天皇様の勅命で現在地に迎えられ、天皇様・皇族の皆様の平穩を祈り、天皇様の願いである世の中が平穩で、人々が幸せであるように祈願することが一番でした。いわゆる天皇様専門でした。ですので明治維新まで宮内庁から維持費を頂いて寺院を護持しておりました。以前から檀家になりたいという方がおられました。天皇様の祈願するお寺なのでお墓をつくることは許されず、護浄院自体も他の寺の檀家となっているの

でと、御理解頂いております。

京都御苑で好きな場所、好きな時期などありますか？

好きな場所は禁裏、大宮・仙洞御所もそうですが堀に一直線の筋が5本線入っていて、これは「定規筋」と言うのだそうですが、この幾何学の直線と、反対側には幾何学模様とは対照的な自然の形をした松があります。その非対称のバランスがすばらしいないつも思っています。御苑の松は自然の形にしてあると聞いていますが、3月の半ばぐらいに犬の散歩をしていますと、東山に月が出ます。苑内から石薬師門越しにその月をみますと、ものすごく綺麗で感動いたします。北には松林があり、その場所は藤原道長邸跡で、「この世をば わが世とぞ思ふ 望月の 欠けたることも なしと思へば」と歌った気持ちが分かるような気がしますよ。

あとは夕暮れの黄昏時が一番いいと思います。昨日もそうでしたが、西を見ると禁裏の5本線の堀越しに松が見え、松越しに真っ赤な夕日が見えて綺麗です。黄昏時の御苑もお勧めだと思います。南に下がって行くと、松越しに月も一緒に付いてきてくれます。夕方は空気が冷たくなってくるので、敬遠して散歩する人は限られてきますが、私は是非夕方の黄昏時の散歩をお勧めします。年に一度くらい大宮御所の北の苑路にテントを張って、月を愛でるひと時を設けて頂いて、僅かな時間ですが、食事をしてお酒も少し頂いてもいいといった機会をお作り頂いてはどうでしょうか。テントを張り、少し照明を準備頂ければそれでいいと思います。

また春は御苑の中にいろいろなお花が咲きます。迎賓館の西は一面黄色の花が咲いて、まるでお花畑化します。いわゆる雑草の一種かと思いますが、雑草でもよく見ると可憐な花が咲いています。一日も同じ景色はありません。季節は秋もいいですが春が尚いいですね。諸行無常を感じます。

松景様の思い出の中で、京都御苑にまつわるものはありますか？

下の娘が小学校低学年の頃、夏休みの宿題を何にしようかと悩んでいたのが、御苑にはどんな木があるか調べたらとアドバイスしたら、そうするというので、親子で御苑の樹木の葉っぱを写真に撮って歩いたことを思い出します。あれは苦労しました。言い出しっぺは私です。『夏休みの相談コーナー』に行き「この葉はなんていう木ですか？」と質問しましたが、「写真だけではね」と言われ、苦労の割には今一つでした。それと家族で御苑北西にある公園によく遊びに行きました。子どもたちも御苑に対しては思いが深いと思います。我が家の庭みたいなものですから。自転車の前と後ろに子どもを乗せてよく行ってましたね。あと犬の散歩、雨が降らない日はほぼ毎日です。基本朝は家内、夕方は私が担当します。あと現在鴨沂高校が新築・改築工事をしていますが、新しくなったグラウンドの塀はすごくいいデザインですね。今までは圧迫感のある汚く高いただの塀でしたが、うちの寺の塀に合わせたような高くなく、上に瓦を乗せた和風の塀です。これも隣に御所や御苑があるおかげでしょうね。いい景観・雰囲気になりました。有難い限りです。

建礼門や清和院御門も綺麗ですばらしいです。これら御苑全体を維持しようとする、維持するだけで結構たいへんだと思います。以前御所や御苑の松は枯れていなくてすごいなという話をしてたんです。東山辺りは松枯れがすごくて、だけど以前御所や御苑の中の松は枯れないので、「これ何か特殊な薬を散布してはるのかな。さすが御苑やな」と。その影響でしょうか、おかげで私の寺の松は1本も枯れることなく有難いと思ってたんなんです。しかし近年御苑の松がポツポツと枯れてきて、心配しています。最近迎賓館の西の大きな松が倒れていましたね。見ると葉は青々としていたのですが、かわいそうにこんな太い松なのに切られて処分されるのかなと思っていました。そのうち松は寝たまま枕を当てられて、ちゃんと大事に養生してもらって。すごいな、さすが御苑。普通なら、かわいそうだけれども切られてしまいます。大事に剪定して形を整えて、枕をして、見ると松が病気で

寝てはるなって感じですよ。あれはなかなかいい絵ですよ。よかったよかった。御苑の人たちは本当に樹木、草花が好きなんだと思います。そして優しいですね。

京都御苑の今後について、御意見などございましたら自由にお聞かせください。

昨年の末あたりから仙洞・大宮御所の塀沿いの歩道の工事が始まりましたが、今までは黒のアスファルトでした。しかし御苑の中、仙洞御所の隣というところで、今度はどんな歩道になるかなーと楽しみに工事の進み具合をみておりました。歩道の縁石も以前はセメントの縁石で風情がないと思っておりました。その後完成した歩道はというと、以前と同じ黒のアスファルトで縁石もセメント性で、がっかりしました。ホームセンターに行きますと1,500円くらいで葛石を売っているの、せめて縁石は石で舗装も迎賓館南の歩道のような土色の歩道にして頂きたかった。また迎賓館について、屋根は一応数奇屋風書院を意識して、起り屋根になっていますが、ついでに3つの門のうち1つは茅門にすれば海外からの賓客も日本の文化を実感でき、喜ばれたのではないのでしょうか。次に御苑には土御門邸や桂宮邸・近衛邸の跡が残っていますが、過去この建物がどんな建物であったかということが分かるように、建物の立体図であるパース図を各所に置いて頂いて、地面の柱跡に礎石を置いてもらえれば大きさも想像してもらえるのではないのでしょうか。我々には有難いことに、いろいろな文化に触れさせて頂いているので、ある程度想像はできますが、一般の方、特に海外の方は当時どんな建物があったのかまったく理解できないと思います。ただの広い公園ぐらいにしか思っておられないのではないのでしょうか。御苑の北部分は公家町があり、それはそれはたいへんな場所であったと思います。私は曼殊院門跡の執事長をさせて頂いておりますが、以前あった建物を復元することについて、内部の資料は残っておりますが、外観の形が分かりませんでした。そこで設計士に依頼しましたら隣接していた建物の垂木に僅かに切り込みがあり、渡り廊下で繋がっていたことが判明し、その渡り廊下の高さから復元する建物の高さが解

り、洛中洛外図屏風の僅かな屋根の形から全体図が出来上がりました。そして発掘調査をしたらその図面通りに柱跡が出てきて、さすがやなと思いました。このように文化財を専門にしている設計士さんをお願いすれば公家町のパース図はそう難しいことではないのではないかと思います。御所といえば日本政治の中心であり、日本文化の中心であった訳で、江戸時代の初め後水尾天皇様の頃は宮廷文化が花開いた時期ですので、そういうものを大切に後世に伝えていくためには必要なことだと思います。現に藤原道長が和歌を詠んだ場所が現存している、歴史的にすごいことだと思うのですが。

それから北に近衛邸跡の庭園が残っていますが、これもすごい庭だと思うんです。あの庭をプロに任せて本来の庭に戻せば素晴らしい庭になります。今はずいぶんと荒れておおざっぱな庭になっていますが、もう少し手を入れて、「さすがこれが五摂家の庭園か」というようにして頂ければ、海外から来る人も何か心に打たれるものがあるのではないのでしょうか。

また桂宮邸跡は想像するだけでもわくわくします。やはり桂離宮の流れで、桂離宮を完成させた八条宮智忠親王様も関わっておられたことでしょうし、素晴らしい庭だと想像しますので、できましたら公開をして頂きたいと思います。

我々はあまりに身近すぎて意識しませんが、他府県の方にとって御苑・御所は一目置かれる存在だと思います。ある僧侶の方とお話をしておりましたら、その方は御所は何箇所門があるのかという質問があり、その門はいつも閉まっているのかといわれまして、いつも開いていて人が自由に出入りしていることを伝えると、塀の中に入れることにびっくりされていました。ただ御苑と御所・禁裏（今は京都御所）の説明がややこしいですけど。門も御苑の門なのか、仙洞・大宮御所の門なのか。いずれにしてもやはり御苑・御所は特別なんです。

来年4月に開校する地元の小学校の名前を募集したところ、御所の東にあるので「御所東小学校」というのが一番多く、結局この名前に決定いたしました。御所のブランド力なんです。このように御所と鴨川の間で暮らしている地元の人たちは、御苑の近くに住んでいることを

誇りに思い日々生活しています。

2017年3月30日インタビュー

聞き手：田村省二、山本昌世

○松景 崇誓さまプロフィール○ 1953年、京都市生まれ。84年清荒神護浄院副住職。2006年、清荒神護浄院の住職となる。2007年、曼殊院門跡執事長、京都市民生委員・児童委員となる。2013年、天台宗宗会議員となる。2015年、京都市上京区保護司となる。

注釈

※1 第49代天皇として770～781年在位。京都に都を移した桓武天皇の父親

※2 大阪府箕面市所在

※3 第100代天皇として1382～1412年在位。

※4 第107代天皇として1586～1611年在位。

※5 第108代天皇として1611～1629年在位。

※6 第112代天皇として1663～1687年在位。